

ASCI2010 に参加して

国立循環器病センター 放射線診療部

河野 淳

2010年3月19、20日に台北で開催されましたASCI2010に参加させていただきました。ASCIには3回目の出席となりましたが、今回はAOCR(Asian Oceanian Congress of Radiology)と併会であり、非常に多くの方が参加されていました。

今回の私の発表は、CABG術前患者に対する内胸動脈CTA撮影時の、静脈内アーチファクトに関する検討について、ポスター発表をさせていただきました。ポスター発表は全体で120演題程度ありましたが、その多くはCTに関するものが多く、MRIやIVRに関する発表が少なかったのが残念でした。

会期中は多くの教育講演が各国の著明な先生により行われ、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。教育講演やシンポジウム、ランチョンなどに多くの時間が割かれ、日本の学会とはやや趣きがことなるな、と感じました。一方でサイエンティフィック・プレゼンテーションは、19日金曜日午後だけであり、4つの部屋で並列に行われたので、CT、MRI、小児・血管というカテゴリーのうちMRIしか拝聴することは出来ませんでした。学会で印象に残った発表としては、心臓MRIのなかで台湾のMing-Ting Wu先生のDiffusion tensor imagingを用いた心筋のFiber mappingのご講演が興味深い発表でした。講演の中で心筋梗塞後のリモデリングについてFiber mappingを用いた検討を紹介されておられましたが、私が普段撮像している心臓MRIでは心筋が層状の構造であるということ認識しにくいものですが、そういったことを区別でき、それぞれの違いを同定し得ることは個人的には驚きでした。

学会主催のレセプション後にASCIに参加された日本人の先生方と会場隣の台北101に上りました。どうしても学会に来ると高いビルに上ってしまいます。台北では英語が通じないところも多く、中国語の併記してあるガイド本は手放せませんでした。なんとか故宮博物館に行くことが出来ました。故宮博物館は世界四大博物館の一つで、展示品の数も多く、歴史好きの先生は是非一度行くことをおすすめします。最終日、日本は記録的な強風ということで飛行機の出発も危ぶまれましたが、なんとか2時間の遅延で帰ってくる事が出来ました。

最後に、学会発表にあたり多くのご指導をいただいた国立循環器病研究センター放射線診療部の先生方と、学会参加費を助成いただいた心臓血管放射線研究会のみなさまに感謝申し上げます。



メイン会場の様子です。